

令和 元 年度

海南市地域防災活動支援事業 実績報告

～ 大 崎 地 区 ～



令和元年12月

海南市

《 目 次 》

1. 概要	1
1.1 地域支援事業の趣旨	1
1.2 事業の目標	1
1.3 訓練想定	1
1.4 訓練参加機関等（塩津地区訓練含む）	2
1.5 実施概要	3
2. 防災研修会	6
2.1 第1回防災研修会	6
2.1.1 概要	6
2.1.2 実施風景	7
2.1.3 ワークショップの結果【大崎地区】	11
2.1.4 講師による講評	13
2.2 第2回防災研修会	14
2.2.1 概要	14
2.2.2 実施風景	15
2.2.3 主な協議事項等	16
3. 大東小学校 防災学習	18
3.1 概要	18
3.2 実施風景	19
4. 下津第二中学校 防災学習	20
4.1 概要	20
4.2 実施風景	21
5. 学生プログラム	22
5.1 概要	22
5.2 実施風景	23
6. 防災訓練	24
6.1 概要	24
6.2 訓練の状況	25
6.2.1 津波避難訓練	25
6.2.2 避難所運営訓練	29
6.2.3 ボランティアセンター運営訓練	37
6.2.4 ボランティア活動訓練	39
6.3 大東小学校の取組	42
6.3.1 訓練の様子	42
6.3.2 訓練の感想（抜粋）	44
6.4 下津第二中学校の取組	45
6.4.1 訓練の様子	45
6.4.2 訓練の感想（抜粋）	47
7. 訓練報告会	48
7.1 福祉系専門職団体	48
7.1.1 概要	48
7.1.2 実施風景	48

7.1.3	主な意見等.....	49
7.2	大崎地区.....	51
7.2.1	概要.....	51
7.2.2	実施風景.....	52
7.2.3	主な意見等.....	55
7.3	社会福祉協議会.....	62
7.3.1	概要.....	62
7.3.2	実施風景.....	62
7.3.3	主な意見等.....	63

1. 概要

1.1 地域支援事業の趣旨

南海トラフ巨大地震に備え、近年の大規模災害を教訓とした避難時の適切な行動や知識を身に付けるとともに、地域力や受援力の強化を図るため、沿岸部に位置する「塩津地区」と「大崎地区」を重点地区として、津波避難訓練及び避難所運営訓練、災害ボランティア活動訓練等を実施する。

1.2 事業の目標

東日本大震災等の大規模災害において、「公助の限界」（行政が全ての被災者を迅速に支援することが困難、行政自身の被災による機能麻痺）が明確になったことを受け、地域住民の助け合いによる、救助活動、避難誘導、避難所運営など、「自助」「共助」による活動の重要性が再認識された。

地区内では、避難所運営において、自主防災組織及び住民一人ひとりが、物資の調達・配布、衛生管理、要配慮者の支援など、避難生活における具体的な役割を想定し、それぞれの避難生活時の行動を整理・実践するとともに、避難所では生活できない在宅避難者を支援することで、地区全体の避難者支援体制を構築する。

また、海南市と海南市社会福祉協議会と連携し、災害ボランティア活動訓練を実施することで、災害時にボランティアの効果的な支援を受けることができるよう、地域の受援力の強化を図る。

さらに、地域の小中学校や県内外の学生等と連携し、防災学習等の取り組みを進める。

1.3 訓練想定

フェーズ1 【発災直後】（9時00分～10時30分）

9月21日（土）午前9時00分、南海トラフ巨大地震が発生。市内全域で大きな揺れとともに、家屋の倒壊や土砂災害が発生。大津波警報が発表されるとともに、第1波が約40分後に到達。その後、南海トラフ巨大地震を想定した津波ハザードマップの浸水エリアが浸水。

フェーズ2 【発災5日後】（10時30分～12時00分）

南海トラフ巨大地震が発生し、5日経過。避難所では避難者があふれるとともに、家屋が無事な方は在宅避難中。発災時より、地域住民が協力し災害対応を行っているが、十分な公的支援が得られない状況。ライフラインは、電気・水道は停止。携帯電話は非常につながりにくい。

発災3日後には、国道42号が道路啓開。海南市災害ボランティアセンターを開設したことから、県内外から災害ボランティアが駆けつけはじめた。

1.4 訓練参加機関等（塩津地区訓練含む）

□主催 海南市、海南市社会福祉協議会

□訓練参加機関等

大崎地区自治会・自主防災会、塩津地区自治会・自主防災会、民生委員・児童委員、消防団、教育委員会、大東小学校、下津第二中学校、県内外の大学・大学院等、和歌山県、県内外社会福祉協議会、福祉系専門職団体、海南警察署、海南海草食品衛生協会、市内在住防災士、市内在住災害ボランティア、地元NPO団体、生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体構成員、学識経験者、その他団体・企業 等

□主な訓練参加者（地区住民除く）

<福祉系専門職団体>

県社会福祉士会、県介護福祉士会、県精神保健福祉士協会、県理学療法士協会
県作業療法士会、県介護支援専門員協会、県ホームヘルパー協会

<小・中学校>

海南市立大東小学校 参加学年 6年生
海南市立下津第二中学校 参加学年 1年生

<県内外の大学・大学院等>

東北大学、名古屋大学、神戸大学、大阪医専、大阪府立大学、関西大学、関西学院大学
京都建築大学校、宇都宮大学、明石工業高等専門学校、東京医療保健大学
兵庫県立大学、立命館大学、和歌山県立医科大学、和歌山信愛女子短期大学
和歌山大学、神戸大学研究チーム

<参加社会福祉協議会>

和歌山県社会福祉協議会、和歌山市社会福祉協議会、紀美野町社会福祉協議会
紀の川市社会福祉協議会、有田市社会福祉協議会、有田川町社会福祉協議会
みなべ町社会福祉協議会、北山村社会福祉協議会、石川県輪島市社会福祉協議会

<地元NPO団体>

NPO法人 ゆうゆうスポーツクラブ海南
NPO法人 下津スポーツクラブ
NPO法人 スポーツ・リパブリック・ソラティオーラ和歌山
NPO法人 海南市水泳協会

□後援

和歌山信愛女子短期大学、東京医療保健大学、和歌山県立医科大学、和歌山大学

□協力

株式会社オークワ、ながみね農業協同組合、株式会社セブーン・イレブン・ジャパン
大塚製薬株式会社

1.5 実施概要

(1) 防災研修会

【第1回】

日時	令和元年6月28日(金) 19:00~21:00
場所	海南市民交流センター 視聴覚室
内容	1. 主催者挨拶 2. 講演 3. 令和元年度重点地区防災訓練について 4. ワークショップ 5. 今後のスケジュールについて

【第2回】

日時	令和元年7月23日(火) 19:30~20:30
場所	大崎会館
内容	1. 防災訓練当日のスケジュールについて 2. 訓練時の各活動班及び活動内容について 3. 訓練までの準備について

(2) 大東小学校 防災学習

【第1回】

日時	令和元年9月11日(水) 10:50~11:40
場所	大東小学校 視聴覚教室
内容	1. 東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』 2. ワークショップ

【第2回】

日時	令和元年9月19日(木) 10:50~11:40
場所	大東小学校 視聴覚教室
内容	1. 海南市防災訓練の予定について 2. 災害ボランティア活動訓練について

(3) 下津第二中学校 防災学習

【第1回】

日時	令和元年9月19日(木) 13:25~15:15
場所	下津第二中学校 視聴覚教室
内容	1. 東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』 2. 海南市防災訓練の予定について 3. 災害ボランティア活動訓練について

【第2回】

日時	令和元年9月21日(土) 13:30~15:30
場所	下津第二中学校 体育館
内容	1. 東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』 2. ワークショップ

(4) 学生プログラム

日時	令和元年9月20日(金) 16:00~19:00
場所	海南スポーツセンター
内容	1. 挨拶 2. 講座1 地域の声をきこう 3. 講座2 グループワーク 4. 訓練説明 5. 和歌山県の取り組み

(5) 防災訓練

日時	令和元年 9 月 21 日 (土) 9:00~12:00
場所	大崎地区内
内容	1. 津波避難訓練 2. 避難所運営訓練 3. ボランティアセンター運営訓練 4. ボランティア活動訓練

(6) 訓練報告会

【福祉系専門職団体】

日時	令和元年 10 月 25 日 (金) 19:00~20:00
場所	海南市役所 会議室 3 A
内容	1. 訓練結果について 2. 成果や課題について 3. その他

【大崎地区】

日時	令和元年 10 月 28 日 (月) 19:30~21:00
場所	大崎会館
内容	1. 主催者挨拶 2. 訓練の概要報告 3. 各活動班の課題等の報告 4. 今後の予定

【社会福祉協議会】

日時	令和元年 10 月 30 日 (水) 10:00~12:00
場所	海南保健福祉センター 第 3 研修室
内容	1. 訓練結果について 2. 成果や課題について 3. その他

2. 防災研修会

2.1 第1回防災研修会

2.1.1 概要

日時	令和元年6月28日(金) 19:00~21:00
場所	海南市民交流センター 視聴覚室
参加者	地区参加者 29名(塩津16名、大崎13名) 職員参加者 9名 社会福祉協議会 3名 学校関係 3名 和歌山県海草振興局 2名 見学者 3名 合計 49名
内容	<ol style="list-style-type: none">主催者挨拶講演 テーマ「住民主体の避難運営が安全と安心を約束」 ～避難所開設と運営のポイント～ AD I 災害研究所 理事長 伊永 勉 氏令和元年度重点地区防災訓練について 危機管理課及び海南市社会福祉協議会より事業概要について説明。ワークショップ ①避難所の使用方法について協議しよう 避難所の平面図を用いて、各スペースの配置を検討。 ②避難所運営体制について協議しよう 避難所運営本部体制の班構成や活動内容について検討。今後のスケジュールについて ワークショップの未完成部分について、次回研修会までの提出依頼。第2回研修会の出席者届の作成依頼。

2.1.2 実施風景

1. 主催者挨拶



2. 講演の様子



【講演の要旨】

- ・熊本地震では、自動車避難生活を行った方が、エコノミークラス症候群になる等の健康被害が問題になる。ペットやプライバシーの問題など、避難所における様々なニーズへの対応が課題となった。
- ・時間が経過すると、家具等の荷物を持ってきすぎて身動きが取れなくなる人がいる。持ってくる荷物のルールを決めるのがよい。
- ・避難所の基本として、一番困っている人の支援を優先する事が重要。東日本大震災の死者は6割が高齢者。障害者の死亡率は健常者の2倍。
- ・避難者名簿を手に入れようとする者がいるため、名簿情報の公開には注意。
- ・避難所において、隣に近所の人がいると落ち着く。
- ・平等より効果優先の選択。食料等が足りない場合は、要配慮者から配給。
- ・ペットも被災するため、ケアが必要。人間より環境の変化に弱いため、飼い主同士の協力が重要。
- ・優しすぎるボランティアには注意。詐欺目的で来る人もいる。
- ・避難所の鍵は一人だけで保管せず、複数名で保管した方がよい。避難所付近で、常に誰かが家にいる方に預けておく事も効果的。
- ・食料等は、部外者が勝手に持って行かないよう、見える場所に置かない。
- ・学校が避難所になるため、避難所運営において、小中学生が大きな力になる。平時より、訓練や体験学習等を通じて、小中学生を育てる事が重要。

3. 令和元年度重点地区防災訓練について 訓練概要について説明



4. ワークショップ ワークショップの手順説明



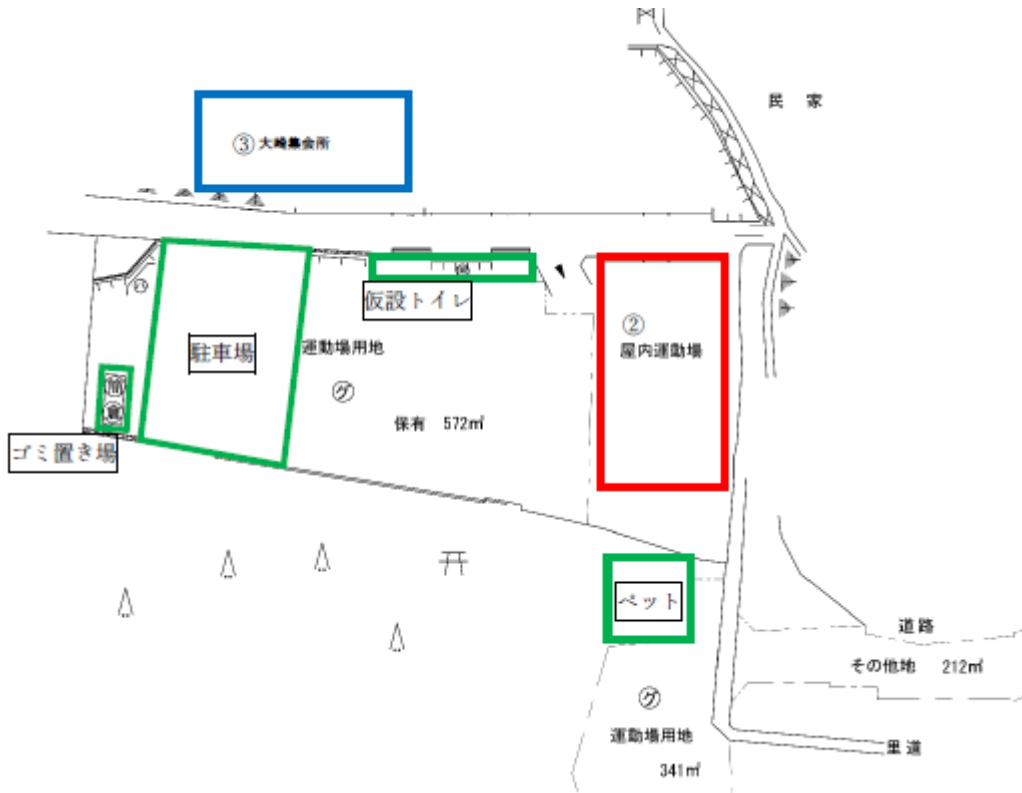
ワークショップの様子
【大崎地区】



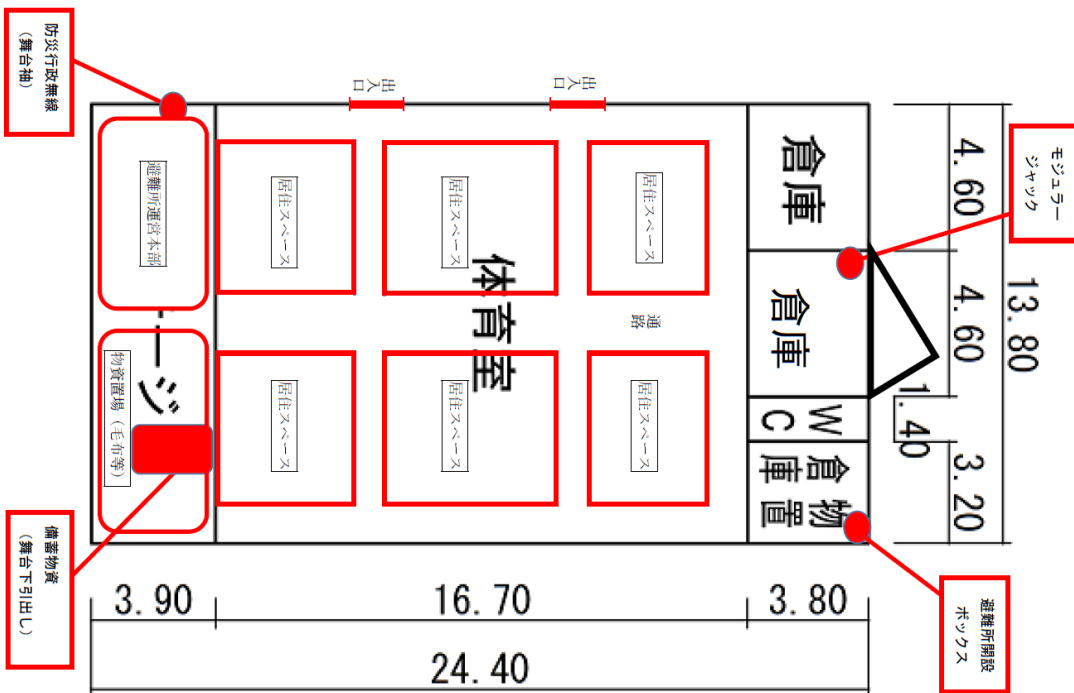
2.1.3 ワークショップの結果【大崎地区】

①避難所の活用方法の検討結果

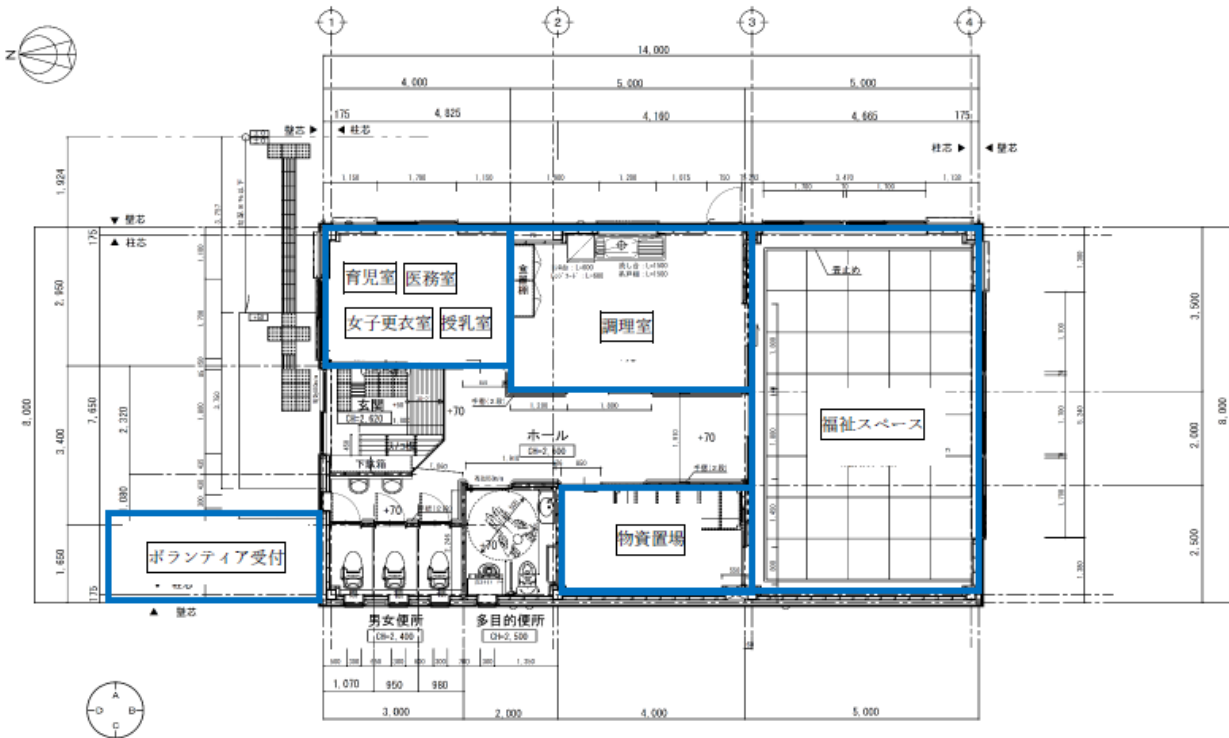
・旧大崎小学校 全体図



・旧大崎小学校 体育館



・大崎集会所



② 避難所運営本部体制の検討結果

避難所運営本部における各活動班の役割

本部長	毛見 壽一	副本部長	武田 清貴	植田 榮	大崎地区	
各活動班名称	総務情報班	被災者管理班	施設管理班	食料・物資班	保健衛生・要配慮者班	ボランティア班
班長	藤岡 定男	武田 勝美	中田 邦夫	田廣 真美	市川 順子	勢 伸之
各班のメンバー	武田清貴 武田博司	武田英信 外瀬和哉 西谷隆	北岡悦治 後秀明 毛見和也	網代優子 市川佳世子 松江敦子 谷本佳世	若林京子 後美紀 谷上久子 若林登貴子	山田 百合
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 運営会議の事務局 運営情報の記録 ルール作り 避難所への要望対応、アンケート調査等 地域復興計画への参加 外国人への対応 情報収集手段の確保 情報収集（行政、マスコミ、各種機関） 他の避難所との情報交換 行政への情報発信 避難所内への情報発信 取材への対応 その他避難所運営に必要な活動 	<ul style="list-style-type: none"> 避難者名簿の作成 入退所の管理 外泊者の管理 避難者名簿の公開 安否確認要請への対応 来客の対応 郵便局員や宅配業者への対応 在宅避難者名簿の作成 車中泊者名簿の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 危険箇所の確認、立入制限、補修の要請 火気の取扱いの制限 避難所内の巡回 女性、子供、高齢者への犯罪に対する対策 飲酒、喫煙への対応 避難者間のトラブルへの対応 トイレの設置 水の管理 ごみ集積場の設置、分別ルール等の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 食料、物資の調達・受入・管理・配給 避難者の物資需要のとりまとめ、食料・物資依頼伝票の作成 食料・物資の荷入れ・払出し 在庫数の把握 炊出しの道具の調達 炊出しの人員確保 アレルギーへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所内の衛生管理 食品の衛生管理を徹底 感染症予防 避難所内の清掃のルール作り ペットへの対応 医療、救護活動 要配慮者の避難状況の把握、所在確認 要配慮者のトリアージ 相談スペースの設置 福祉スペースの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの要請 ボランティアの受入れ ボランティアの役割調整、活動内容の伝達 ボランティア活動記録簿の作成 ボランティアの安全管理

2.1.4 講師による講評



【講評の要旨】

- ・ 協議に時間をかけると決断が遅れるため、リーダーを決め、従うことにした方がよい。
- ・ 決断には常に賛否はあるが、失敗したらリーダーを交代させたらよい。
- ・ リーダーの横に、手順や事務を理解している参謀がいることが望ましい。そんな組織づくりを目指してほしい。
- ・ リーダーは責任を感じすぎる人には苦しい。責任を感じすぎない人、スポーツ経験者、組織に慣れた人、声の大きい人等が適任。

2.2 第2回防災研修会

2.2.1 概要

日時	令和元年7月23日(火) 19:30~20:30
場所	大崎会館
参加者	地区参加者 31名 職員参加者 8名 社会福祉協議会 2名 学校関係 4名 防災士 1名 合計 46名
内容	<p>1. 防災訓練当日のスケジュールについて 訓練の概要を説明。 訓練当日の防災行政無線による情報発信のタイミング、フェーズ1からフェーズ2に切り替わるタイミング、それぞれの時系列における各活動班の取り組みの概要について説明。</p> <p>2. 訓練時の各活動班及び活動内容について 各班に分かれて、それぞれの班に求められる活動内容の説明を実施。また、訓練当日のフェーズに応じたより詳細な取り組み内容を確認。</p> <p>3. 訓練までの準備について 在宅避難者役の方と二次避難者役の方への声かけ及び対象者リストの作成等について依頼。 また、居住スペースの区画割りや訓練結果の報告等を依頼。</p>

2.2.2 実施風景

1. 訓練当日のスケジュールの説明



2. 訓練時の各活動班及び活動内容について



総務班



被災者管理班



施設管理班



保健衛生・要配慮者班



食料・物資班、ボランティア班、各班長

3. 研修会後の地区打合せ



2.2.3 主な協議事項等

【本部長・副本部長 総務情報班】

・避難所運営本部会議について

議事の流れとしては、避難者数の報告の後、各班長から本日の活動内容を説明していただき、記録する。行政からのお知らせについては、避難所開設職員から情報提供を行う。内容については今後調整する。(熱中症対策や水分補給の励行、ゴミの分別等の説明を想定。)

各班長は、開始時刻(10:30)には本部がある場所に集合していただき、本日の活動内容をある程度とりまとめて、報告していただく。

・避難所運営記録簿(様式7)の作成について

災害対策本部会議の議事を取りまとめて記録する。事前に、議事を記録する役と、避難所運営記録簿(様式7)の作成を行う書記役を決める。

【被災者管理班】

- ・訓練の時間が限られていることもあり、資料に添付している「避難者名簿」に記載いただくのは難しい。
- 現在は班長が、安否確認をするための名簿を作成している。この名簿には班と世帯主、世帯員人数が記載されている。
- 訓練設定の発災5日後であれば、「避難者名簿」の記載・収集する時間もあるが、今回の訓練は1時間程度しかないため班長の名簿を提出してもらうよう手配しておかないと避難者数を確認できない。
- ・訓練では、避難所へ行く避難者を避難所避難者、それ以外を在宅避難者として集計することとする。

【施設管理班】

- ・発電機、投光器の保管場所を事前に確認。
- ・生活用水の確保のため、防火水槽の場所について確認しておく。

【保健衛生・要配慮者班】

- ・車いすによる移動について
- 実施については調整必要。
- ・福祉スペースの設営について
- 避難者から協力してもらう人を選出する必要あり。
- ・在宅避難者の情報をボランティア班から引き継ぐ
- 具体的な引き継ぎ手順を示す必要あり。社協と協議し、どのような形式で情報を引き渡せるか確認が必要。

【食料・物資班、ボランティア班、地区の班長（12名）】

- ・食料・物資班は、支援物資の配布検討作業を行う。（実際に物資を配布しない。）
- ・ボランティア班については、ボラセンミニサテライトに詰めている社協職員と共にマッチングを行い、活動内容を共有してもらう。また、ボランティア活動記録簿を作成する。

【地区打合せ】

研修会後、地区役員（3役）と地区の班長（12班長）が残り、班長に対して在宅避難者リスト（各班から4名）及び避難者リスト（各班から5～8名）の作成を依頼。また、後日訓練に関する集会を開催する予定であると説明。

3. 大東小学校 防災学習

3.1 概要

【第1回】

日時	令和元年 9 月 11 日（水） 10:50～11:40
場所	大東小学校 視聴覚教室
参加者	6 年生児童 校長、6 年生担当教諭
内容	1. 東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』 東日本大震災の教訓や体験談から、南海トラフ地震が起こった時に考えられる様々な課題について説明。 2. ワークショップ 南海トラフ地震が発生したことで、自分の周りでどんなことが起こるか時系列で考え、グループで意見を共有する。

【第2回】

日時	令和元年 9 月 19 日（木） 10:50～11:40
場所	大東小学校 視聴覚教室
参加者	6 年生児童 校長、6 年生担当教諭
内容	1. 海南市防災訓練の予定について 訓練当日のタイムスケジュールについて説明。 2. 災害ボランティア活動訓練について 発災 5 日後を想定し、今回の訓練で実施する聞き取り訓練について、その必要性和取組の心構え、注意すべき点について説明。 また、当日着用するビブスの試着を行う。

3.2 実施風景



東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』



ワークショップ



海南市防災訓練の予定について



災害ボランティア活動訓練について

4. 下津第二中学校 防災学習

4.1 概要

【第1回】

日時	令和元年9月19日(木) 13:25~15:15
場所	下津第二中学校 視聴覚教室
参加者	1年生 生徒 1年生担当教諭
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』 東日本大震災の教訓や体験談から、南海トラフ地震が起こった時に考えられる様々な課題について説明。 南海トラフ地震が発生したことで、自分の周りでどんなことが起こるか時系列で考える。2. 海南市防災訓練の予定について 訓練当日のタイムスケジュールについて説明。3. 災害ボランティア活動訓練について 今回の訓練で実施する避難者へのニーズの聞き取りについて、その必要性和取組の心構え、注意すべき点について説明。

【第2回】

日時	令和元年9月21日(土) 13:30~15:30
場所	下津第二中学校 体育館
参加者	全校生徒、教諭 応援社会福祉協議会 学生ボランティア
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』 東日本大震災の教訓や体験談から、南海トラフ地震が起こった時に考えられる様々な課題について説明。2. ワークショップ 東日本大震災をふりかえり感じたこと、南海トラフ地震が発生した時にできることを、応援社会福祉協議会職員と学生ボランティアと一緒に考える。

4.2 実施風景



第1回防災学習の様子



第2回防災学習の様子



ワークショップの様子



発表の様子



参加した大学生の感想

5. 学生プログラム

5.1 概要

日時	令和元年 9 月 20 日（金） 16:00～19:00
場所	海南スポーツセンター
参加者	学生ボランティア 神戸大学研究チーム
内容	<ol style="list-style-type: none">挨拶講座 1 地域の声を聞こう 海南市社会福祉協議会より海南市の紹介。 塩津地区と大崎地区の特色や防災の取組等について紹介。講座 2 グループワーク 各大学別に学校所在地のアピールポイントの紹介。 東北大学渡邊さんより活動紹介。 東日本大震災をふりかえり感じたこと、南海トラフ地震が発生した時にできることを考える。訓練説明 下津第二中学校における防災学習について説明。和歌山県の取り組み 和歌山県の取り組みについて、和歌山県防災企画課より説明。

5.2 実施風景



挨拶



海南市の紹介



塩津地区の紹介



大崎地区の紹介



各大学の紹介



ワークショップの様子

6. 防災訓練

6.1 概要

日時	令和元年 9 月 21 日（土） 9:00～12:00																		
場所	大崎地区内																		
参加者	<table><tr><td>○津波避難訓練 地区参加者</td><td>182 名</td></tr><tr><td>○避難所運営訓練</td><td></td></tr><tr><td>地区参加者</td><td>96 名</td></tr><tr><td>（内本部役員</td><td>26 名）</td></tr><tr><td>消防団</td><td>7 名</td></tr><tr><td>在宅避難者</td><td>39 名</td></tr><tr><td>ボランティアスタッフ（小中学生含む）</td><td>109 名</td></tr><tr><td>スタッフ（市、社協他）</td><td>17 名</td></tr><tr><td>合計</td><td>268 名</td></tr></table>	○津波避難訓練 地区参加者	182 名	○避難所運営訓練		地区参加者	96 名	（内本部役員	26 名）	消防団	7 名	在宅避難者	39 名	ボランティアスタッフ（小中学生含む）	109 名	スタッフ（市、社協他）	17 名	合計	268 名
○津波避難訓練 地区参加者	182 名																		
○避難所運営訓練																			
地区参加者	96 名																		
（内本部役員	26 名）																		
消防団	7 名																		
在宅避難者	39 名																		
ボランティアスタッフ（小中学生含む）	109 名																		
スタッフ（市、社協他）	17 名																		
合計	268 名																		
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 津波避難訓練2. 避難所運営訓練3. ボランティアセンター運営訓練4. ボランティア活動訓練																		

6.2 訓練の状況

6.2.1 津波避難訓練

1. 願称寺 周辺



2. 常行寺 周辺



3. 旧大崎小学校



4. 大崎グラウンド



6.2.2 避難所運営訓練

1. 訓練開始前の様子



体育館内（居住スペース）



避難所運営本部



大崎集会所内



大崎集会所前



ボランティアセンターミニサテライト



2. 総務情報班の取組



避難所運営本部会議の様子



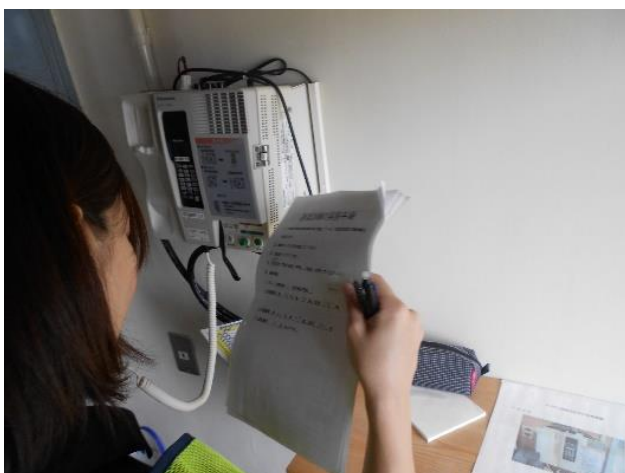
避難所運営本部会議の様子



避難所運営本部会議の様子



市長視察の対応



市との情報連携訓練



和歌山県災害時緊急機動支援隊の対応

3. 被災者管理班の取組



一次避難場所責任者から避難者リストの引き継ぎ



避難者数の集計



避難所運営会議における報告

4. 施設管理班の取組



各スペース・部屋名称の掲示



各スペース・部屋名称の掲示

ゴミ箱の設置



投光器、発電機の起動

5. 食料・物資班の取組



飲料水の配布



支援物資の配布方法の検討

6. ボランティア班の取組



ボランティアセンターの運営補助



ボランティアの誘導

7. 保健衛生・要配慮者班の取組



ペットを連れた避難者の受付



救急箱を福祉スペースへ



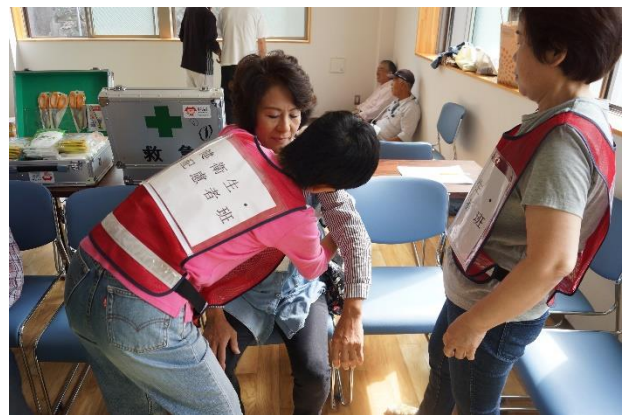
要配慮者を誘導



負傷者への応急処置



負傷者への応急処置



8. ボランティア聞き取り訓練への対応



9. 段ボールベッドの組立訓練



6.2.3 ボランティアセンター運営訓練

1. 訓練開始前 (JAながみね しもつ支店)



2. オリエンテーションの様子 (JAながみね しもつ支店)



3. 受付の様子 (JAながみね しもつ支店)



4. ボランティアセンターミニサテライト（大崎小学校 グラウンド）



5. 各班別の打合せの様子



6.2.4 ボランティア活動訓練

1. 避難所内のニーズの聞き取り訓練



2. 在宅避難者の聞き取り訓練



3. 振り返りの様子



4. 炊出しボランティア



6.3 大東小学校の取組

6.3.1 訓練の様子

1. ボランティアセンターミニサテライト（旧大崎小学校）



2. ボランティア活動訓練



3. 災害関連死予防の取組（ラジオ体操）



6.3.2 訓練の感想（抜粋）

自助・共助が大切だということと、日ごろの訓練が本当に起こったときに活用できることを学びました。これから、本当に起こったとき、ボランティア活動をして、近所の人を助けたいです。

避難所に避難できてもその後どうなるかわからないことがわかりました。いろいろな人の手伝いをする中で、1つの命が守れることもあることがわかりました。

お年寄りの困りごとや不安なところを知れました。そのためには、地域の人みんなが協力しないといけないことがわかりました。

災害が発生した後は、元気がない人や、ハキハキ話すことができない人がいるので、ゆっくり、少しずつ、話を聞いていったらいいことがわかりました。

その人に関係する必要なものを見つけ届けたい。安心できるようにたくさんの人に話しかけたいです。

地域の方は、自分たちで役立つようにがんばっています。自分たちもがんばってみようと思いました。

6.4 下津第二中学校の取組

6.4.1 訓練の様子

1. ボランティアセンターサテライト（JAながみね しもつ支店）



2. ボランティア活動訓練



3. 災害関連死予防の取組（エコノミークラス症候群等の説明）



4. 炊出しの配膳・試食



6.4.2 訓練の感想（抜粋）

海南市にはお年寄りが多いし、本当に災害が起きた時はお手伝いをしたいです。ボランティアにも参加したいと思いました。

訓練に参加し、ボランティアをすることによって学べることや、地域の方々の役に立てることがわかりました。また、自分の成長につながると思いました。人の助けになることを探し、積極的に参加できるようになりたいです。

協力する大切さを学びました。自分たちだけじゃなく、まわりのひとのことも考えて協力しようと思いました。

一人ではなく、みんながいると心強いし、みんなで助け合うすばらしさを学びました。困っている人がいたら、助けてあげたいです。

地域の人たちと関わりを深め、いざという時に助け合えるようにしたいです。また、そのために地域の行事にも参加したいと思いました。

地域のお祭りや行事などのお手伝いをしたいです。地域の人と関わることをしてみたいです。

7. 訓練報告会

7.1 福祉系専門職団体

7.1.1 概要

日時	令和元年 10 月 25 日（金） 19:00～20:00
場所	海南市役所 会議室 3 A
参加者	福祉系専門職団体代表者 9 名 （ 県社会福祉士会、県介護福祉士会、県精神保健福祉士協会 県理学療法士協会、県作業療法士会、県介護支援専門員協会 県ホームヘルパー協会 ） 社会福祉協議会 3 名 危機管理課 2 名 合計 14 名
内容	1. 訓練結果について 訓練の概要について社会福祉協議会より説明。 2. 成果や課題について 参加者が感じた成果や課題について意見交換。 3. その他 被災地支援等の情報交換

7.1.2 実施風景





7.1.3 主な意見等

【成果として挙げられた意見】

- ・福祉系専門職と各団体や一般ボランティアが連携できたことが大きな成果。
- ・専門職が不足する場合でも、専門職の方と連携することで、一般ボランティアや学生が聞き取りに取り組める事が分かった。
- ・災害対応への意識が高い大学生も、今回の訓練で福祉系専門職と一緒に行動することで勉強になったとの感想があった。聞き取りの方法一つでも、目線を合わせる、正面から声掛けするなど、専門家の方が当然のように行っている所作が学びに繋がった。
- ・小中学生について、事前学習・訓練・ワークショップを経て、災害時の福祉的取組に対する理解や意欲が大きくなっていくのがわかった。
- ・訓練により、ニーズを把握し伝えることや、情報を迅速に伝える目的がはっきりし、意識が高まった。
- ・災害時の行動が理解できた。
- ・地域の方が避難所を把握しており、積極的に訓練に取り組んでいた。ボランティア参加者も訪問回数が増えるにつれて聞き取りが上手になった。
- ・質問された避難者役の方も、お薬手帳の持ち出しが必要なこと等の気づきにつながったとの声があった。

【課題として挙げられた意見】

- ・災害関連死に関する情報の連携ができなかった。
- ・実際の災害時の連携について検討する必要がある。医療や法律の専門家との連携も必要。
- ・医療分野の対応も必要となることから、保健師の同行も必要だと感じた。
- ・質問形式になると被災者にとっては精神的な負担となる。実際は時間を掛けて、世間話から把握している。
- ・地図だけでは迷ったところがある。
- ・坂が多いため介護が必要な人の避難が大変だと思った。
- ・何回も声を掛けられると避難者の負担も増える。自治会や保健師による避難所内の調整も訓練できればなお良かった。
- ・避難生活 5 日後の設定での訓練であったため、聞き取りの質問シートの内容もそれに合わせたものにしても良かった。

【その他の意見】

- ・今回のようなチームでどこまでの事ができるか不安はあったが、小中学生や大学生の学びになったことはうれしい。
- ・今回の訓練では、基本的にそれぞれの福祉系専門職をリーダーとしてグループを組んだので、専門職同士の横の連携がなかった。
- ・現在、福祉系専門職の団体同士で連携する仕組みはないが、他の団体がどのような活動を行っているか、このような機会を通じて、平時から顔を合わせて情報共有したい。

7.2 大崎地区

7.2.1 概要

日時	令和元年 10 月 28 日（月） 19:30～20:30
場所	大崎会館
参加者	地区参加者 20 名 海南市社会福祉協議会 3 名 危機管理課 3 名 合計 26 名
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 主催者挨拶2. 訓練の概要報告 危機管理課及び社会福祉協議会より、各訓練の概要について説明。3. 各活動班の課題等の報告 各活動班の班長より訓練において課題と感じたこと、改善できること、感想等について意見交換。4. 今後の予定 危機管理課より訓練報告書の作成時期について報告。 また、大崎地区版「避難所運営マニュアル」の作成、「地区防災計画」の検討について依頼。

7.2.2 実施風景

1. 主催者挨拶



2. 訓練の概要報告



【報告の要旨】

- 津波避難訓練は、地区参加者が 182 名。
避難所運営訓練の参加者は、地区参加者 96 名（内本部役員 26 名）、消防団 7 名、在宅避難者 39 名、ボランティアスタッフ 109 名、スタッフ（市、社協、県、警察等）17 名で合計 268 名。
- ボランティアセンター運営訓練及びボランティア活動訓練について、社会福祉協議会より説明。様々な団体が連携して訓練に取り組んだことで、特に大学生や小中学生の学びに繋がった。
- 小中学校の取組について説明し、訓練に参加した感想を抜粋して紹介。

3. 各活動班の課題等の報告



4. 区長挨拶



7.2.3 主な意見等

【施設管理班】

○課題と感じた事

実際の震災発生時に訓練と同等の活動人員が集まるのか。

昼間においては、他所にいる人も多いと思う。

○改善できると感じた事

備品や消耗品の置き場を一覧表にまとめ、倉庫の外に表示する。

備品で箱に入っている物は、箱に大きく表示する。

○訓練の感想

時系列に追われた。取り組んだ内容の確認が出来なかった。

時間を持て余す時があった。

<危機管理課 意見>

課題として挙げていただいたように、役員がすぐに避難所に駆け付けられない可能性が懸念されますので、どこに何があるのか、誰でもわかるように表示することが重要であると思います。

今回の訓練においては、施設管理班の取組が発災直後に集中してしまい、フェーズ1が忙しく、フェーズ2の取組が少なかったと思います。今後の訓練等の中で、今回実施できなかった、生活用水の確保や、トイレの設営等の取組などの取組について、実践・検証いただければと思います。

【被災者管理班】

○課題と感じた事

今回、小学校グラウンド（4、7、8、9、10）5班の班長責任者が1人であったので、確認が遅くなり報告が遅くなり、食料物資班に報告が遅れた。

○改善できると感じた事

次回より各班長単位で報告してもらおう。（スムーズに行えるように思う）

○訓練の感想

全体的にみて、訓練に備えて、その前に打合せを数回したことにより思ったよりスムーズにいったように思われる。

<危機管理課 意見>

課題として挙げていただいた、大崎小学校グラウンドの集計について、今回、5

つの班を集計していただく事になり、責任者の方の負担が大きくなったことが原因の一つではないかと思えます。ご提言いただいた班長単位での報告について、今後の訓練の中で検証していただきたいと思えます。

【保健衛生・要配慮者班】

○課題と感じた事

- ・ペット専用スペースについて

屋根のある場所（テント）の用意。（今回、天気のこともあり一緒に居住スペースに入っていた）

- ・集会所の福祉スペースについて

椅子も用意したが、畳敷きの方が高齢者は寝転がったりもでき楽だ、負傷者の方も自由な姿勢がとれて良いと言っていた。

部屋は狭いと感じた。高齢者・妊産婦・その他、特に障害症状を持つ方には、もう少しゆとりのあるスペースが必要。

また、肢体不自由な方（車椅子に利用者）が通れるスペースが必要

- ・要配慮者に対するボランティアの聞き取りのフォローについて

お薬手帳・薬持参が役立つ。

なお、発災翌日より薬不足が予測されるので、特殊な薬を服用されている方には特別にお願いしたい。

- ・想定外の負傷人数も考えられる為、救急箱にナイロン袋や三角巾、板、ダンボール、テープが大量に必要（今回はシート・ダンボールを割いて作った）

- ・スタッフは女性ばかりでなく細部となれば、男性も必要、人数も足りない

○改善できると感じた事

- ・テントの購入

- ・次回、障害症状を持つ方・要配慮すべき方やその家族に訓練に参加してもらう。実際に一番不安に感じている。

- ・薬を服用・点眼をしている方は、常に日ごろより出かける際にお薬手帳を携帯する事を心掛ける。（自分のため）

- ・年一回の救急箱の点検の際に想定外もありうるという危機感をもって見直す。

○訓練の感想

中学生も小学生も一生懸命にしてくれていた。将来スタッフとして活躍していただけると確信した。頼もしく思った。

炊き出しのカレーは、とても美味しかった。

市職員、社協の方、警察、消防、学校の先生、その他、多くのボランティアの方々、

当日は本当にありがとうございました。今後に活かしていきたい。

班選出の要配慮者の方にも感謝、負傷者・高齢者役になりきって聞き取りに答え
ていただきありがとうございました。

○その他

- ・避難したという印・・・各戸の戸口などに簡単にできる方法があれば良い。
- ・防災サイレン・放送・・・大雨・大風の夜中の放送は特に聞こえにくい
- ・今、自分ができる事・・・

①ハザードマップで危険箇所等を確認

②お年寄りさんに体験談を聞いたり、昔から言い伝えられてきたこと
などを皆で共有する。

<社会福祉協議会 意見>

改善できる点として、障害症状を持つ方・配慮すべき方やその家族に訓練に参加
してもらうこと、薬を服用・点眼をしている方は、常日ごろより出かける際にお薬
手帳を携帯する事を心掛けること、救急箱の点検の際に想定外もありうるという危
機感をもって見直すことなど、ぜひ、次回には実施してほしい重要なご意見であり
ました。

今回の訓練では被災5日後でしたが、1ヶ月後に向けての保健衛生・要配慮者へ
のポイントは「災害関連死」をいかに防ぐかということです。

救える命は、みんなで守り抜くということです。

広域大規模災害時の長期に及ぶ避難所生活では、病院や福祉施設に通っていた方
は、災害で通院等の医療福祉サービスの提供を受けることは非常に困難となります。

また、避難所では適切な温度管理ができる空調設備もなく、狭い空間に大勢の方
が避難している非常に厳しい環境です。

そのため、多くの方が、体調を悪化させる可能性がございます。

避難されている方をみんなで見守る、また、避難所外避難者は、避難所に来るこ
とができない、避難所に滞在できない方の可能性もありますので、避難所外避難者
の方も、地域みんなで見守る、支援する体制を日ごろの取り組みから地域で構築し
ていただきたいと思います。

<危機管理課 意見>

その他として、避難したことがわかる印ですが、黒江船尾地区では、避難カード
というものを玄関に掲げて、避難確認に活用されております。

また、内海地区の糺自治会では「緑のカード」を使用しており、市外の例では黄
色いハンカチなどを玄関に括り付けている事例もあり、地区内の約束事として、避

難した事がわかるように目立つものを掲げる事が相互の避難支援に有効です。

また、防災サイレンや放送については、放送内容のメール配信サービスやフリーダイヤルで放送内容を確認できるサービスなどを行っておりますので、そういったものを活用いただければと思います。

ハザードマップにつきましては、津波以外にも、地震や液状化、風水害・土砂災害などのハザードマップを作成しておりますので、市のホームページでご確認ください。

【食料・物資班】

○課題と感じた事

避難者の人数を把握するのに時間がかかった。

数のそろっていない物資の配分が難しかった。

資材の品質の確認をする必要がある。

○改善できると感じた事

ひな形を作って人数のみを記入したらよいように用紙を用意したら良い。

出来る限り要望を聞き取り、物資を要求するようにする。

在宅避難者への物資配付は、班長さんを中心に行ったらスムーズに行くのでは物資の品質の確認は日を決めて1年に1回する。

○訓練の感想

ボランティアさんの助けが良かった、てきぱきしていた。

○その他

個人個人の防災意識の確認

防災の準備はできているか

<社会福祉協議会 意見>

改善できると感じた事として、記入用紙の改良、出来る限り要望を聞き取り、物資を要求すること、在宅避難者への物資配付は、班長を中心に行ったらスムーズに行くのではないかとの意見など、訓練を実施したことで見えてきた課題であり、大変良かったことだと感じました。

今回は被災5日目でしたが、今後1ヶ月後に向けての支援物資に関するポイントは2つございます。

1つめは、「避難所に必要な物資がこない、不必要な物資が山積みになる」ということです。

市からの支援物資だけではなく、知人や会社、見ず知らずの方などからも直接支

援物資は届き始めます。避難所では、赤ちゃんがいないのに紙おむつが山積みされていたり、着ることが難しそうな衣類が山ほど届いたりする。しかし、その一方で食料が不足していたりする。そのような現状のなか、食料物資班は、物資を避難者にどのように配分していくか、どのように保管していくかが大きな役割となると思われる。

2つめは、「避難所外避難者への物資提供」についてです。

避難所での生活者は、毎日顔を合わせて共同生活をしているので、状況を把握しやすいですが、避難所外避難者は、避難所生活者からは、直接顔が見えず、非常に気を配りにくいです。避難所を地域の物資配布拠点としているものの、電話や携帯が使用できないなかでは、避難所外の避難者への適切な情報提供や物資配布が非常に難しいのです。

特に、自宅で避難されている方は、避難所では生活できない障害をお持ちの方や病気の方などが多く、配慮が必要な方も多いため、今後は、彼らにどのように食料や物資を提供できるかを地域としても考えて行く必要があるように感じております。

【ボランティア班】

○課題と感じた事

- ・ボランティア班は「ボランティアの誘導」と「ボランティアセンターとの連携」が主な活動内容だったので、あまり活動がなかった。
- ・誘導するボランティアが、予定されていた当初の時間より10～15分早く到着されたのだが、聞き取り訪問などボランティアの活動時間が決まっていたので、それまでボランティアに待ってもらう場所がなかった。(苦情やクレームは聞いていない)
- ・ボランティアセンターのテントの周辺には蜂と蚊、訪問先への道には蜂が飛んでいたと聞いたので、ボランティアの安全管理にも注意が必要だったのではと感じた。

○改善できると感じた事

- ・ボランティアの活動状況は模造紙に書いて貼り出されていたが、ボランティアのスタッフと言葉を交わすなどコミュニケーションを取りながら情報共有を図る。
- ・到着時間に変更が生じること、また屋外のため天候に左右されることにも想定しながら、余裕を持った準備をしておく。
- ・ボランティアが安全に活動できるよう、可能な範囲で蜂等の害虫駆除ができればと思う。

○訓練の感想

在宅避難者の中には留守の方がいたが、特に混乱することもなく、ボランティアはスムーズに活動できていたように思う。

<社会福祉協議会 意見>

今回の訓練では、社協主導でボランティアセンターミニサテライトを設置し、どのグループがどういう活動を行うかあらかじめ決めていましたが、実際に災害が起こった時は、地域のニーズとのマッチングなど、地区との連携が重要と考えております。

【総務情報班】

○課題と感じた事

- ・要配慮者（保健衛生・要配慮者）の動向が把握できない。（場所が離れているため）
- ・フェーズ1からフェーズ2に移行する時のギャップが大きく一般の参加者にはわかりづらかったのではないかと感じた。
- ・県の緊急機動支援隊による聞き取り内容について、細かすぎたので、他の取組を行う時間がなかった。

○改善できると感じた事

- ・県の聞き取り調査を受けて、今何がどの位必要か聞かれたとき、理想とする備蓄品（食料、水、薬、衣類、燃料など）の一覧表を大崎自主防災会として作成することが必要と感じた。

○訓練の感想

- ・全体としてうまくいったと思います。
- ・雨天でなくてとてもよかった。
- ・今年初めて、運営本部体制を立ち上げて、試行錯誤しながら、色々あったが、取り組んでよかった。

<危機管理課 意見>

必要な備蓄物資の量については、避難者の人数や、備蓄の在庫によって変わってくると思いますので、中々すぐに答えることは難しいと思います。

課題でもあげていただいておりますが、避難所内の状況把握について、各班の連携を密に行うことが重要であると考えます。

今回、避難所運営本部会議を行っていただきましたが、円滑な情報交換が行えるよう、会議の運営方法や回数等について検討していただければと思います。

【区長挨拶】

今回の訓練にあたり、非常に長期間役員さんにはご苦労いただきました。今後も、防災役員体制は変わらないので、引き続きご尽力いただくようお願いしたい。区長の任期満了後は、一区民として防災活動に協力したい。

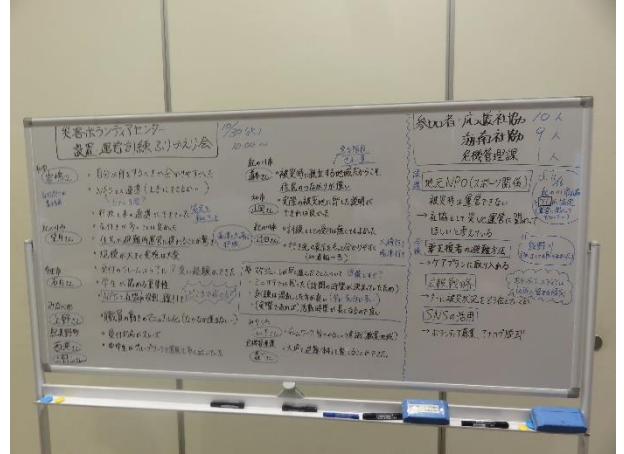
7.3 社会福祉協議会

7.3.1 概要

日時	令和元年 10 月 30 日（水） 10:00～12:00
場所	海南保健福祉センター 第3研修室
参加者	応援社会福祉協議会職員 10名 海南市社会福祉協議会 9名 危機管理課 1名 合計 20名
内容	1. 訓練説明 訓練の概要について社会福祉協議会より説明。 2. 成果や課題について 参加者が感じた成果や課題について意見交換。 3. その他 被災地支援等の情報交換

7.3.2 実施風景





7.3.3 主な意見等

- ・今回の訓練ではボラセンとNPOとの連携を実施しているが、一般のしっかりしたNPO団体は自身で支援活動を進める傾向がある。ボラセンの活動に協力してもらう協定などあるのか？
 - 特に協定等はない。今回は指定管理で施設を持っているNPOに声を掛けた。ねらいとしては、大規模災害が発生した場合、多くの施設が通常営業できなくなり、NPOの職員も仕事がない状態になることが想定されるため、そういった人材は災害対応に活用できるのではないかと考えている。今回はボランティアとして来てもらったが、どのように協力してもらうか、市も含めて協議が必要。(海南市社会福祉協議会)
 - 普段から定期的にNPOとの交流を持っており、台風等の機会に協力いただいている。(みなべ町社会福祉協議会)
 - 11月16日にJCと協定を締結する予定。ノウハウや人材が多く、大きな力になると思う。海南市とも協定したいとの意向を示されていた。(紀の川市社会福祉協議会)
- ・熊野川町では、紀伊半島大水害をきっかけに、「こんな危険なところに帰ってくるな」と若者に呼び掛けている。少々若者を取り込んでも、高齢化は防げないので、居るもので楽しく過ごすことが大切であると、若者の減少を逆手に取った取り組みを考えている。
 - 今回訓練を行った塩津・大崎地区も、これからますます高齢化率が高くなっていく

が、同じように、居るもので何とかしようという雰囲気を感じた。今後は、どの地域でも高齢化は共通の課題になっていくので、この2地区の取組をモデルケースに、他地区にも取組みを発信できればよいと思う。(和歌山市社会福祉協議会)

- ・ ボランティアセンターサテライトから20分バスが早く出た。成功か？失敗か？
→ミニサテライトの立場から言うと、スケジュールが決まっている以上、早く来られると待ってもらえる時間があるので、困る面があった。一方、ボランティアセンターサテライトとしては、早く出発していただいた事自体はよかったと思う。実際の現場では、はやる気持ちを抑えられないボランティアから、怒号が飛び交うことが常なので、いかに早く現地に向かわせるかがポイントになる。(海南市社会福祉協議会)
- ・ 社協同士でしっかりと顔が見える関係ができたことが大きい成果だと思う。このような機会が多く設けることが大事。(海南市社会福祉協議会)
- ・ 災害時は情報発信をいかに行うかがポイント。マスコミに取り上げられるかどうかで、ボランティアの支援も義援金も大きく変わるので、広報戦略が非常に重要。マスコミの拠点を呼び込んで、定点取材を行ってもらえれば、大きな支援が期待できる。(海南市社会福祉協議会)
- ・ 災害時には、行政、社会福祉協議会、NPOの3者が連携することが重要になる。今回の訓練で実践できたことは大きな成果。(海南市社会福祉協議会)

令和元年度 地域防災活動支援事業 実績報告

～ 大崎地区 ～

令和元年 12 月

海南省 総務部 危機管理課

〒642-8501 海南省南赤坂 11 番地

TEL : 073-483-8406

FAX : 073-483-8483